

林産物の輸出力強化に向けた対応方向

(品目名)林産物(スギ)

丸太中心の輸出から、付加価値の高い製品輸出への転換を推進
～ 我が国の加工技術を活かした木材製品のブランド化の推進 ～

現状・課題

- 輸出量が最も多い樹種であるが、その大部分は中国向けの低価格・低質な丸太輸出。付加価値の高い製品中心の輸出に転換していくためには、実需者向けPRの強化による日本産木材の認知度の向上、相手国・地域ニーズを踏まえた輸出向け製品開発とブランド化、戸建て住宅やマンション内装をターゲットとした販売促進等が必要。

今後の取組

- **スギをはじめとする日本産木材の認知度の向上【平成28年度から常設展示等による取組強化】**
 - ・住宅や建材関係等のBtoBに重点化して日本産木材のPRを強化(展示会、セミナー、中国語ホームページ、バイヤー招聘等)
- **日本産木材製品のブランド化の推進【平成28年度から実施】**
 - ・中国をはじめとする主要な輸出先における、相手国・地域の事業者と連携した木材製品や住宅部材に関するニーズの深掘り
 - ・相手国・地域のニーズや中国木構造設計規範の改定(スギ・ヒノキの構造材利用等が新たに規定される予定)等に対応した輸出向け製品仕様の作成、日本の加工技術を活かした製品開発等による日本産木材製品のブランド化の推進
- **ターゲットを明確にした販売促進【平成27年度からモデル住宅建築を開始】**
 - ・輸出先の建築・建材関係企業や住宅デベロッパー等、製品の販路拡大のためのパートナーの新規開拓
 - ・モデル住宅の建築・展示、軸組み工法やプレカットの施工技術指導等による、富裕層を対象とした戸建て住宅分野への進出
 - ・マンション内装材や建具等、付加価値が高く需要が大きい新たな分野における販売促進
- **製品加工の低コスト化による国際競争力の強化【平成27年度補正予算により取組を推進】**
 - ・大規模・高効率の木材加工施設の整備や原材料の安定供給体制の整備による製材、合板等の生産コストの低減
- **丸太の供給体制の強化【宮崎県・鹿児島県の共同出荷の取組を他地域に拡大】**
 - ・地域の森林組合等の共同出荷による大ロットの供給体制への転換、港湾等における輸出環境の向上

(品目名)林産物(ヒノキ)

高級材であるヒノキの特質を活かした製品開発と輸出先国・地域の拡大を目指す
～ 高級感や健康効果などヒノキの特質を活かしたブランド化の推進 ～

現状・課題

- 輸出先第一位の韓国では、高級感や成分(ヒノキチオール)の健康効果(殺菌、生理活性作用等)から人気が高く、主に住宅内装材、家具等に利用されているが、日本からの輸入丸太の現地加工が大半。今後、ヒノキの特質や我が国の加工技術を活かした製品輸出や韓国以外への輸出の拡大が課題。

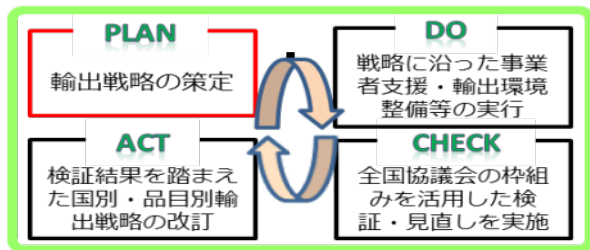
今後の取組

- **ヒノキの認知度の向上【平成28年度から常設展示等による取組強化】**
 - ・ヒノキの健康効果を活かしたPRを韓国以外でも開始(特に、少子化により子供へ投資する意識が高い中国が有望)
- **ヒノキ製品のブランド化の推進【平成28年度から実施】**
 - ・ヒノキの健康効果や高級感を活かした住宅内装材、家具等の輸出向け製品開発
 - ・相手国・地域のニーズや中国木構造設計規範の改定(スギ・ヒノキの構造材利用等が新たに規定される予定)等に対応した輸出向け製品仕様の作成、日本の加工技術を活かした製品開発等による日本産木材製品のブランド化の推進
- **ターゲットを明確にした販売促進【平成27年度からモデル住宅建築等を実施】**
 - ・輸出先の建築・建材関係企業や住宅デベロッパー等、製品の販路拡大のためのパートナーの新規開拓
 - ・モデル住宅の建築・展示、軸組み工法やプレカットの施工技術指導等による、富裕層を対象とした戸建て住宅分野への進出
 - ・マンション内装材や建具等、付加価値が高く需要が大きい新たな分野における販売促進
- **製品加工の低コスト化による国際競争力の強化【平成27年度補正予算により取組を推進】**
 - ・大規模・高効率の木材加工施設の整備や原材料の安定供給体制の整備による製材、合板等の生産コストの低減
- **丸太の供給体制の強化【宮崎県・鹿児島県の共同出荷の取組を他地域に拡大】**
 - ・地域の森林組合等の共同出荷による大口の供給体制への転換、港湾等における輸出環境の向上

農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略(平成25年公表)

国別・品目別輸出戦略

農林水産物・食品の輸出額を
2020年までに1兆円規模へ拡大



約4,500億円

水産物 1,700億円
加工食品 1,300億円
コメ・コメ加工品 130億円
林産物 120億円
花き 80億円
青果物 80億円
牛肉 50億円
茶 50億円

【2012年】

ブランディング、迅速な衛生証明書の発給体制の整備など
(EU、ロシア、東南アジア、アフリカなど)

「食文化・食産業」の海外展開に伴う日本からの原料調達増加など
(EU、ロシア、東南アジア、中国、中東、ブラジル、インドなど)

現地での精米や外食への販売、コメ加工品(日本酒等)の重点化など
(台湾、豪州、EU、ロシアなど)

日本式構法住宅普及を通じた日本産木材の輸出など
(中国、韓国など)

産地間連携による供給体制整備、ジャパン・ブランドの育成など
(EU、ロシア、シンガポール、カナダなど)

新規市場の戦略的な開拓、年間を通じた供給の確立など
(EU、ロシア、東南アジア、中東など)

欧米での重点プロモーション、多様な部位の販売促進など
(EU、米国、香港、シンガポール、タイ、カナダ、UAEなど)

日本食・食文化の発信と合わせた売り込み、健康性のPRなど
(EU、ロシア、米国など)

1兆円

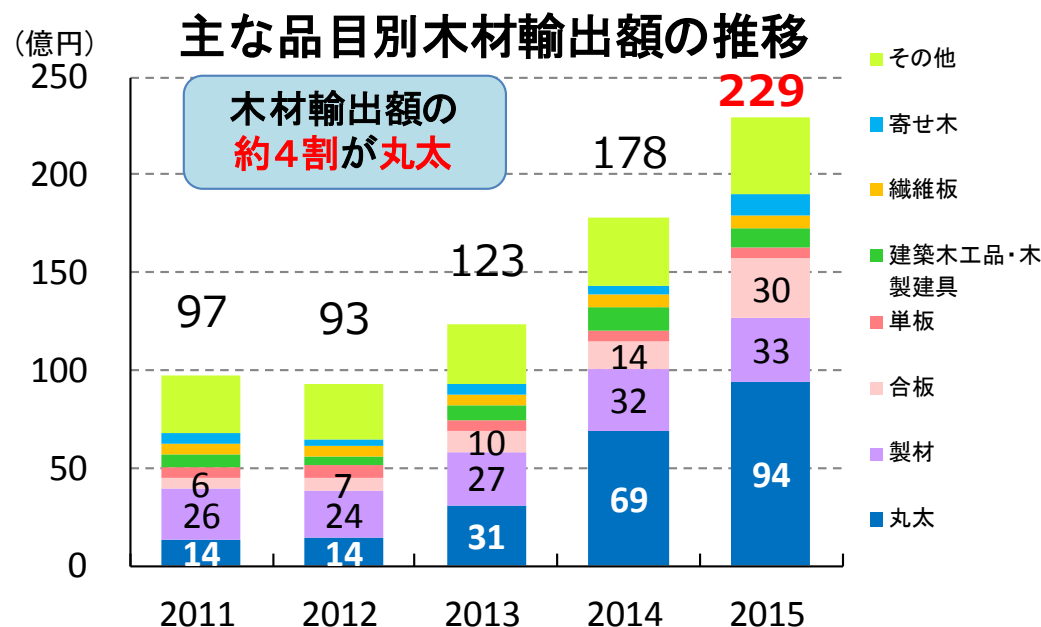
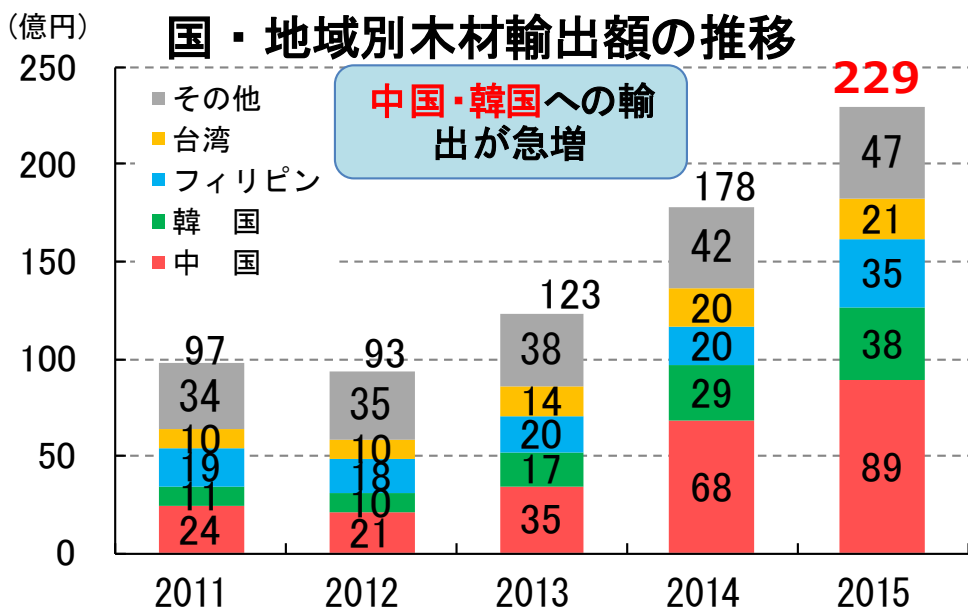
水産物 3,500億円
加工食品 5,000億円
コメ・コメ加工品 600億円
林産物 250億円
花き 150億円
青果物 250億円
牛肉 250億円
茶 150億円

【2020年】

➡ 平成27(2015)年の林産物輸出額は270億円となり、目標を上回った。
(うち木材229億円、特用林産物41億円)

木材輸出の状況(1)(国・地域別・品目別輸出額)

- 木材の輸出は、近年は100億円前後で推移していたが、平成25(2013)年以降は中国・韓国向けを中心に急増し、平成27(2015)年は前年比29%増の229億円。特に丸太と合板輸出が大幅増。
- 中国・韓国の展示会への出展、日本産木材のPR、中国の木造建築基準(「木構造設計規範」)の改定作業への参加等により、国産材の輸出を推進。



資料：貿易統計



中国における住宅関係の展示会
(H25森林・林業白書より)



韓国での内装材としてのヒノキ利用
(日本木材輸出振興協議会HPより)



台湾に輸出される合板
(H26森林・林業白書より)

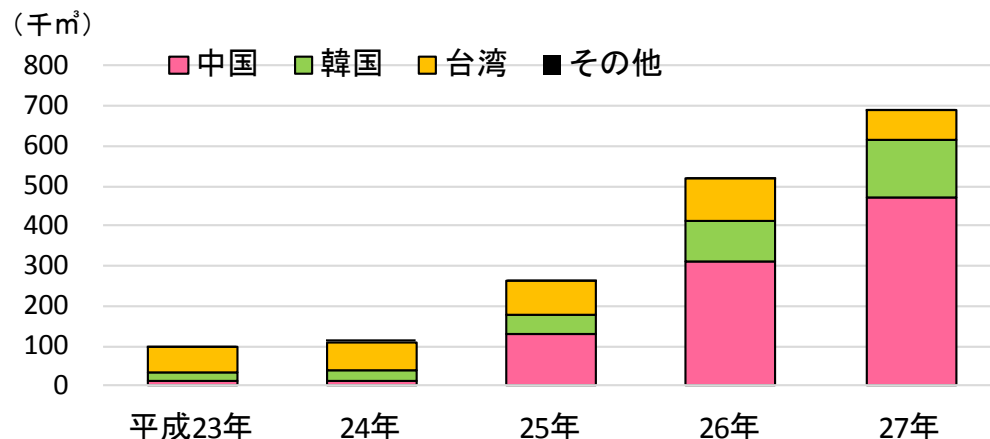
木材輸出の状況(2)(丸太・製材の輸出量)

- ・平成27年の丸太輸出量は**69万m³**に増加(前年比133%)。国・地域別には**中国**(47万m³)、**韓国**(14.5万m³)、**台湾**(7.5万m³)の**3か国**でほとんど(99.6%)を占める。
- ・製材輸出量は**約6万m³**(前年比89%)で、近年は**ほぼ横ばいの状況**。国・地域別には、**中国**と**フィリピン**で75%を占める。

丸太輸出量の推移

丸太輸出量	平成23年	24年	25年	26年	27年
中国	15	15	130	312	470
韓国	21	27	50	98	145
台湾	62	68	82	107	75
その他	2	4	3	3	3
計	100	114	265	521	692

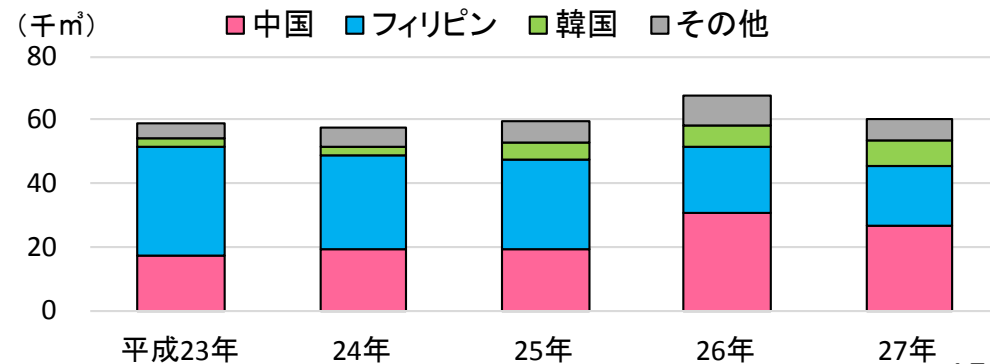
資料:貿易統計



製材輸出量の推移

製材輸出量	平成23年	24年	25年	26年	27年
中国	18	20	19	31	27
フィリピン	34	29	28	21	19
韓国	3	3	6	7	8
その他	5	6	6	9	7
計	59	58	59	68	60

資料:貿易統計



木材輸出の状況(3)(中国、韓国向け輸出)

- ・平成27年の中国向け木材輸出額は、**89億円**で前年より21億円の増加(対前年比131%)。品目別では、**丸太、製材で8割**(81%)を占めている。
- ・韓国向け木材輸出額は、**38億円**で前年より9億円の増加(対前年比132%)。品目別では、**丸太、製材で8割**(80%)を占めている。

■ 中国への主な輸出品目

(億円)

品目	平成26年	平成27年	対前年比
木材合計	68 (100%)	89 (100%)	131%
丸太	37 (54%)	57 (65%)	156%
製材	13 (19%)	14 (15%)	103%
合板等	3 (5%)	3 (3%)	96%
繊維板	3 (5%)	4 (5%)	142%
建築木工品・木製建具	5 (6%)	2 (3%)	47%
パーティクルボード	1 (2%)	2 (2%)	167%
その他	6 (8%)	7 (7%)	116%

資料:貿易統計

■ 韓国への主な輸出品目

(億円)

品目	平成26年	平成27年	対前年比
木材合計	29 (100%)	38 (100%)	132%
丸太	18 (61%)	25 (66%)	142%
製材	4 (16%)	5 (14%)	117%
建築木工品・木製建具	2 (6%)	3 (8%)	164%
加工木材	1 (4%)	1 (3%)	98%
食卓用品	0.2 (1%)	0.4 (1%)	172%
合板等	0.2 (1%)	0.4 (1%)	161%
その他	3 (11%)	3 (7%)	87%

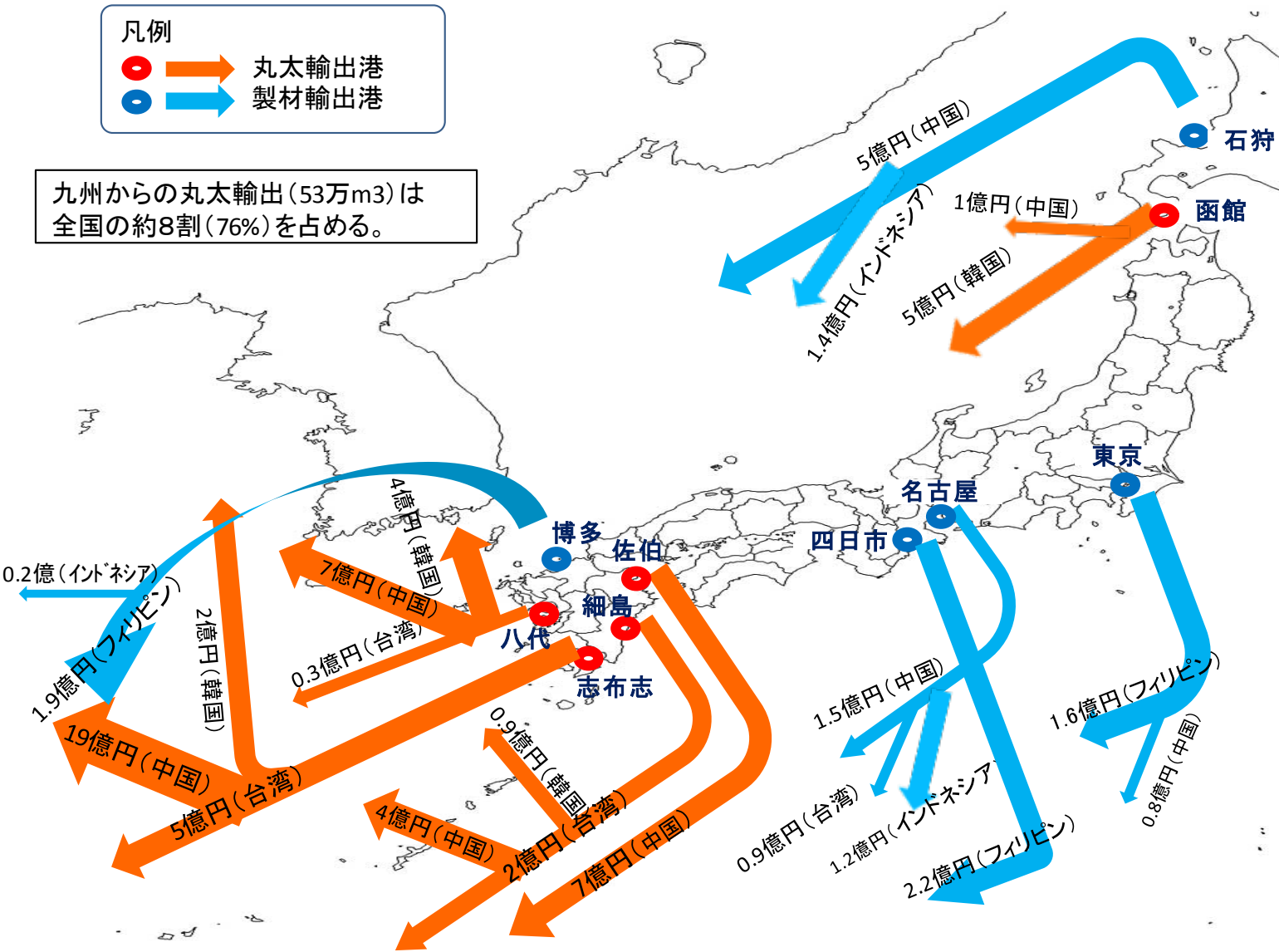
資料:貿易統計

木材の主な輸出港(平成27年税関別輸出額)(丸太、製材別の上位5港)

凡例

- → 丸太輸出港
- → 製材輸出港

九州からの丸太輸出(53万m3)は
全国の約8割(76%)を占める。



【木材合計】 (億円)

順位	税関	金額
1	志布志	26
2	大阪	17
3	神戸	17
4	名古屋	16
5	八代	12
	その他	141
	計	229

【丸太】 (億円) (千m3)

順位	税関	金額	量
1	志布志	25	204
2	八代	11	78
3	細島	7	54
4	佐伯	7	59
5	函館	6	50
	その他	38	247
	計	94	692

【製材】 (億円) (千m3)

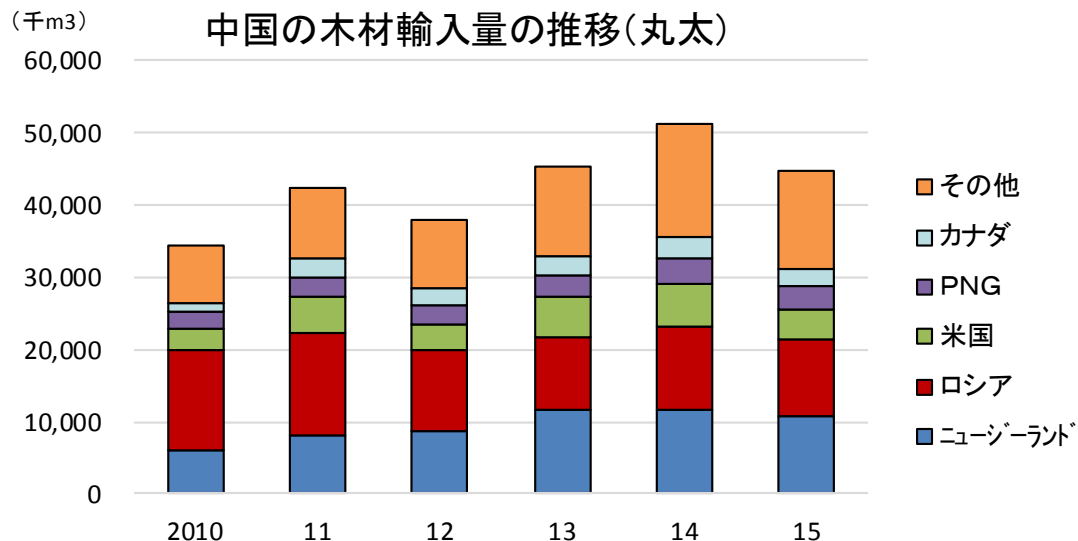
順位	税関	金額	量
1	石狩	6	2
2	名古屋	4	5
3	東京	3	11
4	博多	2	5
5	四日市	2	6
	その他	16	31
	計	33	60

中国の木材輸入量の推移

【丸太】

- 丸太の輸入量は、2010年の34百万m³から、2015年の45百万m³へ、30%の増加。材種別には、針葉樹30百万m³、広葉樹15百万m³。
- 主な輸入先は、ニュージーランド(24%)、ロシア(24%)、米国(9%)、パプアニューギニア(7%)など(2015年)。
- 日本からの輸出(47万m³)は、輸入量全体の1.1%(2015年)。

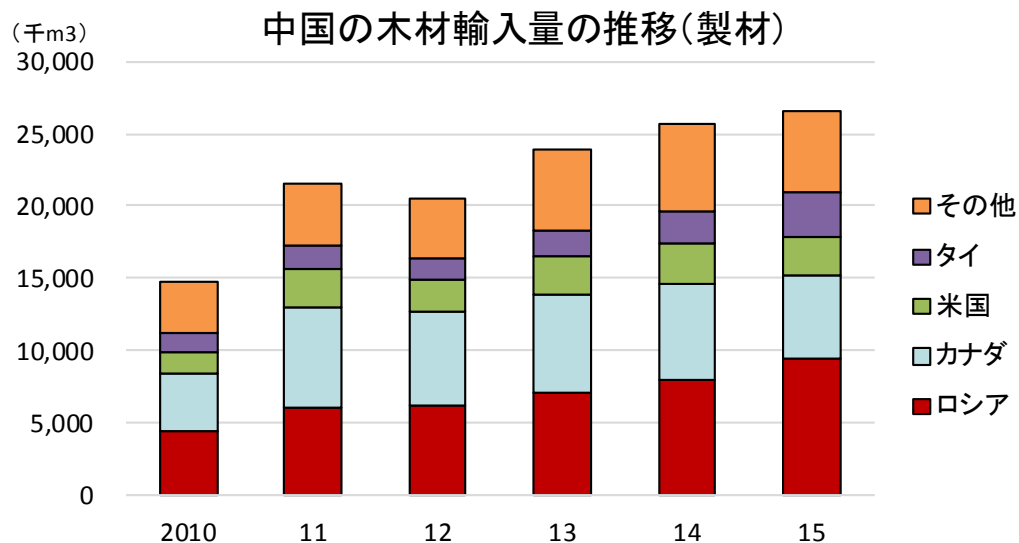
中国の木材輸入量の推移(丸太)



【製材】

- 製材の輸入量は、2010年の15百万m³から、2015年の27百万m³へ、81%の増加。材種別には、針葉樹18百万m³、広葉樹9百万m³。
- 主な輸入先(2015年)は、ロシア(36%)、カナダ(21%)、タイ(12%)、米国(10%)など(2015年)。
- 日本からの輸出(3万m³)は、輸入量全体の0.1%(2015年)。

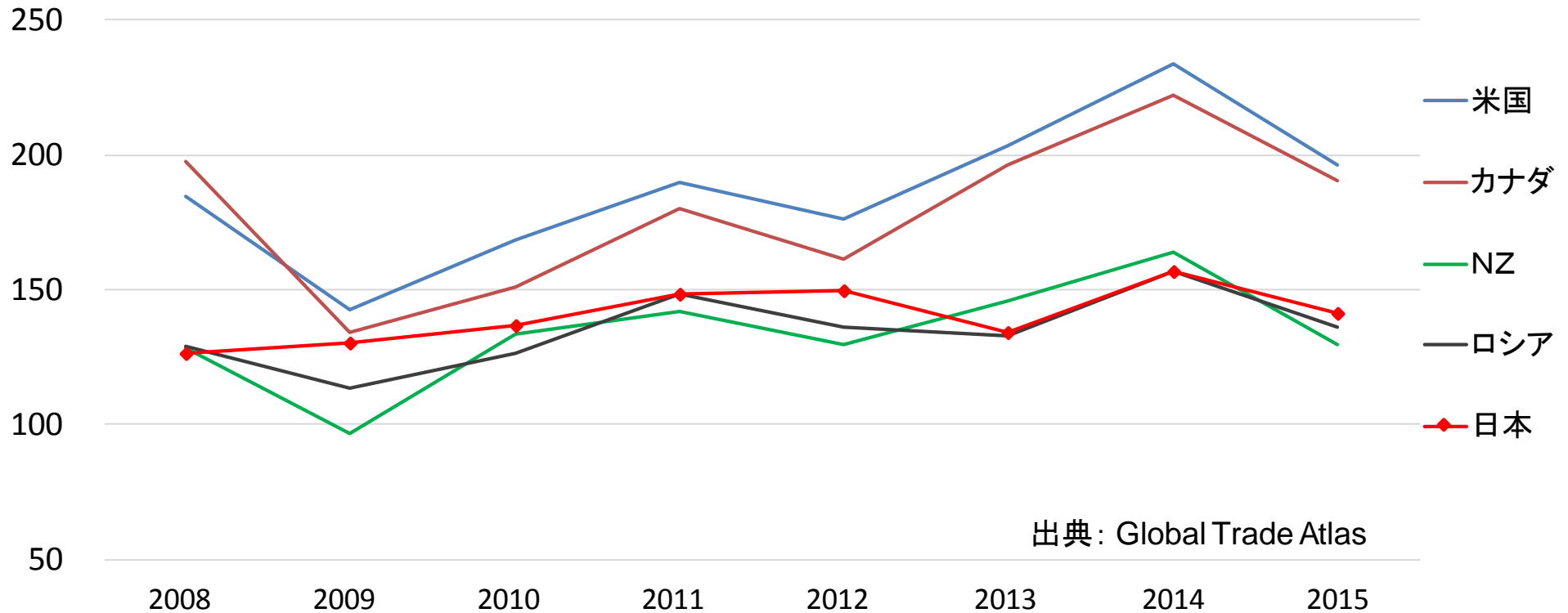
中国の木材輸入量の推移(製材)



中国：主な輸入国・地域別の針葉樹丸太輸入価格の比較

* 日本産丸太(中国向けは主にスギ)は、NZ材、ロシア材と価格的に競合。
ただし、量的にはこれらの国からの輸入量の数%程度に過ぎない。

単価(USDドル)



注：1. 各国・地域からの針葉樹丸太の輸入額を輸入量で割った単純平均価格で、樹種は混み。

2. 中国の港着の輸入価格である。

3. 量の単位は2013年以前はm³、2014年以降はトンとなっているため、その間は連続していない。

中国の「木構造設計規範」改定について

経緯、概要

- 木構造の設計に関する基本事項(工法、構造、材料、強度、防火等)を定めたもので、日本の建築基準法に相当。
- 木構造設計規範は1952年制定、今回は4回目の改定。
- 米国・カナダは2003年(第3回)の改定作業に参加。2×4工法と北米材の構造材としての利用を同規範に盛り込み、結果、両国から中国への木材輸出が飛躍的に拡大。
- 今回の改定作業のために「改定委員会」を設置(平成21年)。日本産木材等を新たに盛り込むべく、日本からも専門家が同委員会に参加(農林水産省、森林総合研究所、日本木材輸出振興協会等が支援)
- 第4回改定委員会(平成25年10月)で日本側提案(下記)を含む改正案を了承済み。その後の政府部内の手続き待ちの状況。(平成28年中に、審査委員会を経て中国政府建設部による告示、施行の見込み)
- 規範改定を見込んで、日中の木材関係者等が共同で、現場向けの具体的な設計規範の手引き書を策定中。

基本設計規定

日本産スギ、ヒノキ、カラマツを明記

木造建築に使用できる構造材の樹種として、日本産スギ、ヒノキ、カラマツを明記

強	強度等級	適用樹種
↑ ↓	TC17	シダレイトスギ、ダイオウマツ、スラッシュマツ、ウエスタンラーチ 等
	TC15	ツガ、アブラスギ、アラスカヒノキ、ダグラスファー、ウエスタンヘムロック、サザンパイン 等
	TC13	シベリアカラマツ、ウンナンマツ、パピショウ、コントロールタマツ、アメリカカラマツ、カイガンマツ、日本産ヒノキ、日本産カラマツ 等
	TC11	ホクセイムラサキトウヒ、シベリアトウヒ、ウエスタンイエローパイン、SPF樹種群、カナダツガ、コウヨウザン、日本産スギ 等
弱		

角材原木構造

軸組工法に係る基準を設定

木造軸組工法について、新たに「梁と柱」、「壁」、「床組」等に関する基準を設定。

平成28年度木材輸出関連補助事業

木材製品輸出特別支援事業 (平成27年度補正予算、林野庁)

- TPP対策の一環として、付加価値の高い木材製品の輸出を促進
- 日本産木材製品のブランド化に向けた取組
 - 輸出向け木材製品仕様等の作成
 - 輸出向け製品の試作・改良
 - 輸出先における日本産木材に関するセミナーの開催 等



- 新たな輸出先国・地域等における販売促進

【新規輸出先国・地域を対象】

- 木材製品の展示・PR
- 市場情報の収集・提供
- 広報媒体を通じたPR
- バイヤーの招へい 等



新たな木材需要創出総合プロジェクト のうち海外での地域材利用 (平成28年度予算、林野庁)

- 中国における日本産木材を用いた木造モデル住宅の建築及び展示・PR
- 日中の事業者共同による輸出向け製品の開発 等



輸出に取り組む事業者向け対策事業の うちジャパブランドの確立に向けた取組 (林産物向け)(平成28年度予算、食料産業局)

【中国、韓国を対象】

- 海外での日本産木材製品の展示・PR
- 中国木構造設計規範に基づく手引きの作成
- 国内検討会・セミナーの開催
- 海外市場調査、バイヤーの招へい 等



輸出及び国内生産の現状(スギ)

- 輸出額は、H25年以降、丸太輸出の大幅増により増加傾向で推移し、H27年の輸出額61億円のうち、丸太が49億円(8割)を占める。国・地域別に見ると、中国向けの丸太輸出(土木用、梱包用等の低質材中心)が37億円で突出した状況。スギ丸太は用途・価格面から特にNZ材と競合。
- 一方、資源量は、スギ人工林面積448万ha、同蓄積17億m³(うち41年生以上が約14億m³)
- 国内生産額は、伐期に達した人工林資源の増大、間伐の促進、路網整備、生産性向上等により、漸増傾向で推移。

- 輸出額及び輸出量の推移(億円、万m³)(丸太、製材の合計)

	H23	H24	H25	H26	H27	H32目標
輸出額	16	16	26	47	61	林産物250億円の内数
輸出量	9	10	20	37	48	-

- H27輸出額の国・地域別内訳(億円)(丸太、製材の合計)

国・地域名	中国	台湾	フィリピン	韓国	その他	計
輸出額	41	9	7	4	0	61
シェア	67%	15%	12%	6%	0%	100%

- 国内生産額及び国内生産量の推移(億円、万m³)

	H23	H24	H25	H26	H27
生産額	1,018	973	1,120	1,296	-
生産量	965	996	1,090	1,119	-

(参考) TPP対日関税交渉結果(重点国・地域) → 林産物の輸出重点国・地域は、中国、韓国、台湾(TPP不参加)

国・地域名	カナダ	マレーシア	
結果	SPF製材 16年目撤廃	熱帯木材合板 16年目撤廃	(丸太はすべて無関税)

輸出及び国内生産の現状(ヒノキ)

- 輸出額は、H25年以降、丸太輸出の大幅増により増加傾向で推移し、H27年輸出額37億円のうち、丸太が26億円(7割)を占める。国・地域別に見ると、韓国において健康効果への評判からヒノキ人気が高まっており、韓国向け(住宅内装、家具用等の丸太、製材)が好調な状況。
- 一方、資源量は、ヒノキ人工林面積260万ha、同蓄積7億m³(うち41年生以上が約5億m³)
- 国内生産額は、伐期に達した人工林資源の増大、間伐の促進、路網整備、生産性向上等により、漸増傾向で推移。

- 輸出額及び輸出品量の推移(億円、万m³)(丸太、製材の合計)

	H23	H24	H25	H26	H27	H32目標
輸出額	13	12	18	30	37	林産物250億円の内数
輸出品量	3	3	6	10	12	-

- H27輸出額の国・地域別内訳(億円)(丸太、製材の合計)

国・地域名	韓国	中国	台湾	その他	計
輸出額	24	9	2	2	37
シェア	65%	24%	6%	5%	100%

- 国内生産額及び国内生産量の推移(億円、万m³)

	H23	H24	H25	H26	H27
生産額	386	336	392	407	-
生産量	217	217	230	240	-

(参考)TPP対日関税交渉結果(重点国・地域)→林産物の輸出重点国・地域は、中国、韓国、台湾(TPP不参加)

国・地域名	カナダ	マレーシア	
結果	SPF製材 16年目撤廃	熱帯木材合板 16年目撤廃	(丸太はすべて無関税)